

「北アルプス・・笠ヶ岳、焼岳・・ひとり旅」

(1315) E/S

平成 20 年 9 月に入って天気の良い日が続くので急に山に行きたくなり、5 日ほど前に高立山で会った人から聞いた北アルプスの笠ヶ岳へ行くことにした。8 日の 11 時頃に家を出て、一人、車で富山、神岡を通り新穂高温泉の無料駐車場に何とか着く事が出来た。時間がまだ早かったので登山口に通ずる林道のゲート迄行って見てきた。今晚は車で寝るので食事を作り食べていると、近くにいた車の人が愛知の豊橋から来て、今晚は車の中で寝て明日は鏡平の小屋に泊まり、笠ヶ岳へ行くと言ったので、私は笠ヶ岳の小屋に泊まり鏡平を回って帰ると言ったら、途中で会えるかもね



笠ヶ岳山姿

と言って、それぞれの車で寝た。朝、食事をして 6

時に歩き出す。林道ゲートを通り笠新道登山口迄 1

時間歩く。登山口に東京から来て昨晩はワサビ平小屋に泊まり、これから笠ヶ岳へ登ると言う 70 歳過ぎの御夫婦が朝御飯を食べていた。登山口の所の水場で水を補給してよいよ登りに掛かる。樹林帯の中をジグザグの急登が続く。大粒の汗が流れ、息が上がり、だいぶ体力が落ちたと痛感する。途中数人のグループを 3 回程追い越す。樹林帯の間から、ときどき、槍、穂高が見え隠れする。苺が赤くなっていたので取って食べたがあまり甘くなく種が硬く口の中に残る。途中若い女の人が二人休んでいた。群馬から来たとのこと。長い樹林帯を登り切り、杓子平に着く。此処で大休止とする。何人かの人々が既に休んでいた。見上げると抜戸岳から笠ヶ岳への稜線が目の前に続き笠ヶ岳が良く見える。頂上まではまだ随分かかりそ



笠ヶ岳山頂にて

う。カール状の中を通り、稜線を目指してガレた所をジグザグに、ペンキの目印をたどって急登を慎重に登る。なんとか稜線に出て縦走路を歩く。左に槍、穂高を見ての稜線歩きは気持ちが良い、ルンルン気分だ。笠ヶ岳が良くみえるピークで昼御飯を食べていると、ツアーの団体さん達、20 人位の人たちが、下山してきた。昨日は笠ヶ岳の小屋に泊まったとのこと。

抜戸岩にさしかかる。大きな岩が二つに割れていて、廊下の様なところを通り抜けた。だから抜戸岩と言うのかなと思った。小屋の下にあるテント場まで来

た。小屋はすぐ近くに見えるのだが、なかなか足が進まない。休み休み少しずつ進む。ひとり旅なので好きな時休み、好きな時食べ、時間に束縛されず、気ままな山登りである。大きな石や、岩の間の踏み跡を探しながら、一步、一步踏みしめながら登る。なんとか小屋に到着する。12 時 50 分。登山口から 5 時間 50 分。良く一人で此処まで来たもんだ。自分の身

体に感謝。64歳の身体を誉めてあげたい。小屋で宿泊の申込をして、荷物を部屋に置き一休みしてから山頂を目指す。小屋からはガシタ岩屑の良く整備された登山道を15分位で山頂に着いた。山頂からの眺めは360度。目の前に槍ヶ岳から北穂高、涸沢岳、奥穂高の山並みが、また反対奥には一ヶ月前に登った水晶岳、

(黒岳)、鷲羽岳、薬師岳、黒部五郎岳などが見え、また天気も良く幸せいっぱいの気持ちになった。小屋まで下山してまだ夕食まで時間があつたので小屋の前のテラスで槍、穂高を目の前に夕日を浴びながらアルコールを傾けながら、見知らぬ人との語らいがまた楽しく、私が新潟から来て、生まれが佐渡だと言うと、大阪の岸和田から来たダンジリパワーのおばちゃんたち、4人組みの一人が、佐渡の花はきれいで特にザゼンソウには感動した。生まれて初め



杓子平からの笠ヶ岳

て見たと言っていたしまた東京から来た女の人は角田山と弥彦山のオオミスミ草がとてもよかったと言っていたし新潟はいい山があつても特に飯豊が近くて羨ましいなど話は尽きることなく時間はあつという間に過ぎた。夕食の時間になり、山小屋での楽しみの一つである夕食を食べ床に就く。今日は小屋もすいていて定員の3分の1の40人ぐらいでしたので、ゆっくりと寝ることが出来ました。朝はご来光を部屋の中で見た。今日も良い天気になりそう。朝飯をしっかりと食べ、小屋の人にお礼を言って6時30分に出発する。今日は私にとっては長丁場になるので、ヨシ！イクソ！と気合を入れる。今日は最初から稜線歩きなので楽しみだ。昨日歩いた道を抜戸岳の分かれ道行き、抜戸岳へ登り、それから縦走路へ出る予定で頂上へ登る。この山も眺めは良い。頂上から縦



鏡平池と槍ヶ岳

走路へ出る道はなく、ハイマツの茂みをかき分けなんとか縦走路の稜線へ出ることが出来た。緩やかな稜線を行き、秩父岩を右に見て急坂を秩父平へ下りる。花の頃は多分きれいな花が見られた事と思われた。ここからの槍、穂高もすばらしい。ここからは大ノマ岳への登りにかかる。かなりきつい登りだ。一息ついてると後ろから来た人が追い越して行った。笠ヶ岳の小屋で一緒だった長岡の人で、これから双六の小屋をまわって西鎌尾根から槍ヶ岳へ行く

と言っていた。何とか大ノマ岳へ登り、登ったのと同じくらい大ノマ乗越まで下る。途中駐車場で会った豊橋から来た人に出会う。ここからまた弓折岳への登りが始まる。何とか弓折岩へ登る。頂上三角点は登山道から少し離れていた。登山道に戻り、分岐から鏡平への道を鏡平山荘へ下る。すぐそこに見えるのだがなかなか着かない。途中大きなザックを背負って登って来る女の人に会う。分岐から30分で鏡平の小屋に着く。10時。出発から3時間30分。だいぶ疲れた。小屋の前にあるテーブルのところのイスに腰掛け、生ビールを注文して飲む。渴いた喉にビールは美味しい。一気に飲み干す。その後昼飯代わりにパンを食べて、1時間休みの11時に出発する。すぐに池があり池の岸から見る槍は見事だ。池に映る槍を写真に撮ろうと思ったが、水面に少し波が有り駄目だったので、槍ヶ岳の写真だけにした。今度は槍ヶ岳に登りたい気持ちになる。(一週間後に槍ヶ岳に登る)鏡平からの小池新道は、

大きな石のゴロゴロした下りで、足、特に膝へのダメージが大きく、秩父沢へきた頃はヘトヘトになる。水場なので休憩する。休んでいると女の人が一りで登って来たので、林道までは未だですか？と聞いたらまだ 50 分位は掛かるとのこと、アアまだまだかと思う。もう少しで林道という所で靴が小さくなったのか、それとも足がふやけて大きくなったのか足が痛くなり、厚い靴下を脱ぎ薄い靴下だけで靴を履き歩く。林道まで出ると橋の所に自転車が 3 台置いてあった。新穂高から乗ってきたのかな？帰りは下りで楽だろうな。林道を歩く。途中ワサビ平小屋、昨日登った笠新道の登山口などを通り新穂高温泉に着く。途中の林道で自転車 3 台に追い越される。到着、15 時 30 分。朝小屋を出てから 9 時間。64 歳の身体、一人で初めての山をよく頑張った。頑張った新穂高のバスターミナルの横にある無料の温泉に入る。気持ちよく汗を流す。アー極楽、極楽なんとも言えないこの気持ち良さ。明日もまた山に登るか？駐車場まで行き、携帯で明日天気良さそうなので、明日もう一日山に登ってから帰ると自宅に電話する。明日は焼岳へ行くことにした。登山口は新中の湯ルートで行くことにしたが、場所が分からない。道路地図を見ながら行けばなんとかなるさ、といつもの調子で駐車場を後にする。新平湯温泉を通り、平湯温泉からトンネルに入らないで安房道路、国道 158 号線を行くと聞いたので何とか 158 号線に入る。あまり広くなく曲がりの多い登り坂の道路を走るが、国道なのに一台も車に会わない。道を間違ったのか不安になるが、いつもの通り何とかなるさとそのまま走る。やっと安房峠の標識が在りホットするも夕暮れが近づいたので早く登山口が見つからないか不安になる。どんどん走っていくうち道路の横に車が一台停まっていたのでその反対側に小さな看板に登山口と書いてあるのを見つける。直ぐに食事をして車の中で寝る。なかなか眠れない。周りは真っ暗、たまに通る長距離トラックの灯火だけ、眠れないので 3 時過ぎに起きて食事をして、4 時にヘッドランプを点灯して出発する。樹林帯の中の登山道をヘッドラン



焼岳の噴気

プの明かりを頼りに木の根っこに気をつけながら登る。5 時に休憩をとりヘッドランプを外す。下堀出合で中の湯ルートと合流する。やがて樹林帯も無くなり木製のハシゴを 3 ケ所程登るとガシガシの登りになり、だいぶ上の方に噴気が見える。この山は北アルプス唯一の活火山なのだ。太陽が昇り今日もまた良い天気になりそう。又、今日も暑くなりそう。大きな石のゴロゴロした急登の道をペンキの目印を頼りに汗を流しながら慎重に登る。北峰と南峰の分岐に着く。少し休む。6 時 30 分。携帯が通じたから自宅に電話する。今日は帰るから。南峰は登山禁止、北峰に登ることにする。分岐の反対側は旧火口で火山ガス発生の為進入禁止のロープが張ってある。北峰の下をトラバースするとき近くで火山ガスがシューシューと音をたてていて、朝早く私一人なので心細く不気味だ。小屋への分岐から一気に北峰の頂上にロープに掴まりながら登る。6 時 45 分。朝早いので誰もいない。独り占めの頂上は何か寂しい。360 度の眺望を楽しんで写真を撮り下山する。百名山なのに一人も人に会わないのは初めてのこと。下山の途中に東京から来た 30 人の団体さんや、又 3 人ぐらいのグループなど、大勢の人に会った。やはりこの山も百名山なのだ。9 時に登山口に到着、色々支度をしておいて 9 時 30 分自宅に向って出発する。